

## <令和5年5月定例記者会見>

### 1 開催日時

令和5年5月10日（水）午前10時から10時30分まで

### 2 場所

滝沢市役所 庁議室

### 3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、NHK盛岡放送局、盛岡タイムス社、IBC岩手放送、岩手日報社

### 4 発表事項

#### (1) 日本酒「鞍掛山」の新酒発売について（経済産業部観光物産課）

株式会社南部美人様に製造販売いただき、ご好評をいただいております日本酒「鞍（くら）掛山（かけやま）」の新酒について、5月26日（金）から販売を開始いたします。市内農業者が丹精込めて作った滝沢市産の酒造（しゅぞう）好適（こうてき）米（まい）「ぎんおとめ」で醸造し、さらりとした飲み口で深い味わいが特徴のお酒です。料理と一緒に、また、純米吟醸酒なので冷（ひ）や、常温、燗（かん）どれでもおいしく飲んでいただけます。

今年も市内スーパーなどを中心に数量限定販売となりますので、是非皆さんお早めにお買い求めください。

#### (2) 滝沢市版まちづくりキットを用いたすごろくゲームについて（企画総務部たきざわ魅力発信推進室）

このたび、ブラザー販売株式会社様と本市の連携により、「滝沢市版まちづくりキット」を用いた地域愛着の醸成を図るため、オリジナルのすごろくゲームを開発いたしました。

「滝沢市版まちづくりキット」は、ブラザー販売株式会社様との包括連携協定に基づき、市役所や県立大学・盛岡大学、スイカのガスタンクなど、市内の特徴的な建物などをペーパークラフト化したものであり、子どもたちが作って遊びながら地域のことを知り、愛着を育むきっかけづくりとすることを目的としたものです。

今回のすごろくゲームは、この取組を加速化させるツールとして、「滝沢市での人生の疑似体験」をテーマに開発いたしました。また、開発の過程では、岩手県立大学、盛岡大学、岩手大学の学生8名が有志でワークショップに参加し、「若者」の視点も生かしながら、産・学・官の連携により取り組んでまいりました。

完成したすごろくゲームについては、本市のホームページに掲載し、どなたでも無料でダウンロードして遊ぶことができるようになっております。ご家庭のプリンターなどで印刷の上、親子や友達同士などで一緒に遊びながら、楽しく本市について知っていき、地域への愛着を育む端緒となることを期待しております。

なお、本日の会見には、ブラザー販売株式会社様より、取締役の吉川様にオンラインで御出席いただいておりますので、取組の紹介をお願いしたいと存じます。

## 【ブラザー販売吉川取締役】

すごろくの制作にあたっては、昨年度複数回滝沢市を訪問し、大学生とのワークショップなどを実施しました。ただ作るだけでなく、滝沢市の魅力は何なのか、地域に愛着を持つのはどういったことなのか深掘りし、「やりたくなるすごろく」について議論を重ねました。十分に滝沢市の魅力が伝わるすごろくになったと思うので、たくさんお子さんに遊んでほしいと思っています。まずは学童から展開していく方向と聞いているが、いずれは学校などでも活用いただき、一人でも多くの子どもたちに愛着を生むきっかけになればと考えています。

## 5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：市長は完成したすごろくを見て、率直にどう思われましたか。

市長：これまでに子どもたちに遊んでもらった中で、「楽しい」という声をもらっていると聞き、本当によかったと感じています。必要なものは全て自宅でプリントアウトでき、親子で一緒になって建物などを作り、市の魅力を知ることができるという良いツールだと思っています。

後で見てもらえればと思いますが、各マスに書かれている内容も、本当によく考えられています。

記者：内容が非常に練られているというお話ですが、例えばこういったところに「滝沢市らしさ」が入っていると思われませんか。

市長：各マスには小学校の名前が入っていたり、地域全体を俯瞰して見ることができる点が素晴らしいと思っています。地図のように地域を巡りながら、マスの内容を一つひとつ確認していくという部分が、特にも考えられていると感じました。

記者：これによって、どのような効果を期待しますか。

市長：子どもたちが滝沢市の魅力について再発見する、またペーパークラフトの中にあるビッグルーフやスイカタンクなど地域の特徴的な建物を一つひとつ思い浮かべながら、自分も滝沢市の中を旅行する、巡るという体験をして、子どもたちに市の魅力を再確認し胸に刻んでほしいと思います。

記者：ぜひ利用してほしいというメッセージをカメラに向かってお願いします。

市長：お父さん、お母さんとそして家族みんなで楽しんでほしいと思います。

記者：楽しみながら、どうしてほしいという部分までコメントをいただけますか。

市長：楽しみながら、滝沢市の魅力を再確認してほしいと思います。

記者：県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」によるワークショップを開催されたとのことですが、詳細な日時を教えてください。

企画政策課長：令和4年度、定期的集まって実施したものです。

記者：何回ほど集まって実施しましたか。

企画政策課長：情報が現在手元にないので、記者会見終了後に回答させてください。

→終了後に回答。(全17回以上。企業(ブラザー販売)と市で4回、学生、企業、市で7回、学生と市で6回以上。その他随時の打ち合わせあり。)

記者：開発段階で、対象となる小さいお子さんを対象にした体験会などは実施しましたか。

企画政策課長：実施しております。今回の正式発表よりも前に、プレとして学童保育クラ

ブで実際に試してもらっております。こういった動きや子どもたちの反応があるかを見ながら、今回の完成にこぎ着けております。

記者：体験会は一度ですか。複数回実施していますか。

企画政策課長：2回実施しております。今年3月に、学童保育クラブと、放課後子ども教室で実施しております。

記者：体験会を実施してみて、子どもたちの意見をもとに内容をアップデートした部分があれば教えてください。

企画政策課長：終了後に改めて回答させてください。

→終了後に回答。(内容というよりは、「子どもたちへの提供の仕方」をアップデートした。子どもたちは、マスの内容よりも幸福ポイントの上下に一喜一憂しがちになってしまうため、一緒に学生や市役所職員が遊びながら、マスの内容や職業について伝えるやり方を学んだ。)

記者：まちづくりキットはすでにHPで公開済みかと思いますが、すぐろくも公開済みでしょうか。

企画政策課長：記者会見終了後、本日から市HPで公開いたします。

記者：遊ぶために必要なものはすべて家庭で用意できる仕様になっているという事でしょうか。

企画政策課長：その通りです。紙さえ用意いただければ、ご家庭のプリンターで印刷し、作って遊ぶことができます。

記者：すぐろくの作り始めはいつですか。

企画政策課長：令和4年度からです。

記者：学生8人が制作メンバーとして参加したとのことですが、学生からはどんな意見がありましたか。

企画政策課長：終了後に改めて回答させてください。

→終了後に回答。(自分たちも滝沢の知らなかった行事や場所などを知ることができてよかった、子どもたちが笑顔になれる場所を提供できてよかったという意見があった。)

記者：開発の主体は、ブラザー販売(株)と滝沢市の2者で間違いはないか。

企画政策課長：その通りです。

記者：これまで18種類のペーパークラフトがあるとのことだが、これはすぐろくで使えるように全て市HPで公開されているという事でしょうか。

企画政策課長：まちづくりキットは先行して公開してあり、今回はゲームとしてのすぐろくを開発し、皆様に楽しんでいただくために新たに市HPで公開したものです。

記者：地域への愛着を醸成するためには様々な手法があると思いますが、なぜすぐろくを選んだのか、何か理由はありますか。

企画政策課長：市の特徴的な「職業」についても子どもたちに考えてもらえるきっかけとなればという思いから、自衛隊があったり、学校や病院があったり、それぞれの成長段階に応じて各マスで様々な体験をしたり、地域をめぐって歩けるという部分を考えて、すぐろくという形でゲーム化しました。

記者：市の観光名所や産業などについて網羅できる形がすぐろくだったということですか。

企画政策課長：その通りです。なおかつ、食についても考えてもらえるきっかけとしつつ、人生ゲーム的な要素を盛り込んでいます。

記者：吉川取締役に質問です。ブラザー販売の代表者のお名前はHPに掲載されている安井宏一（ひろかず）社長でよろしかったでしょうか。

吉川取締役：読み方は「こういち」になります。

記者：ブラザー販売の主な事業として、新聞等で「製造業」などと表記する際に、何と書けばよろしいでしょうか。

吉川取締役：確認して後程回答させてください。ブラザーグループとしては製造業となりますが、ブラザー販売は国内の販売・マーケティングを担っているため、公表する場合の表記について確認させてください。

→終了後に回答。（卸売・小売業）

記者：市長にお伺いします。ふるさとに対する子どもの愛着を育むことが狙いというお話でしたが、その背景にはどういった課題があるのですか。

市長：若者が岩手県に定着していない状況、特にも盛岡大学、岩手県立大学、そして岩手大学といった若い人達が県外に出て行ってしまいます。子どもの頃から、自分の成長の過程で、滝沢市の魅力などについて心に刻んでもらって、将来滝沢市、あるいは岩手県で暮らすんだ、というきっかけのひとつになればうれしいと思っています。

記者：滝沢市は中心市街地の形成が課題でもあり、盛岡市のベッドタウンの役割を担う側面もあると思いますが、市としての何か「核」となるものを作りたいという思いも背景にあると考えてよいですか。

市長：そうですね。しかし、中心市街地だけでなく、地図の中に自分の住む地域がどのあたりにあるのか意識してもらうこと、また市のイベントや建物など自分の暮らす地域全体を俯瞰して把握できるということもこのすぐろくの良いところだと思っています。子どもたちはどうしても車に乗っての移動が多く、地域のどこにどういった建物があるかなど、なかなか分かりにくいところもあると思います。このすぐろくでは、地図の上で楽しみながら、市の魅力などについて確認し、さまざまな職業があり、色んな人が関わり合っこの滝沢市が形成されているんだということを感じていただくことも大切です。市役所周辺だけが市の魅力ではなくて、市内全体にさまざまな見どころがあるんだということも知ってもらえたらと思います。

記者：滝沢に住んでいる自分たちがまず市のことを知って、愛着・愛情をもって定着につなげていくという考え方ですね。

市長：そうです。

記者：今後の展開として、体験会など直近で予定として決まっているものはありますか。

企画政策課長：5月下旬から6月上旬に市内の学童保育施設で実施予定です。場所や日時は調整中です。決定次第、各社にお知らせさせていただきます。

記者：鞍掛山について、製造販売は南部美人だと思えますが、扱いとしては滝沢市の日本酒ブランド、という理解でよろしいでしょうか。

市長：その通りです。市内のスーパーやビッググループでしか取り扱いませんし、ふるさと納税の返礼品として扱うものです。限定品ですのでなくなったら終了です。

- 6 その他記者からの当日質問  
特になし